

中学校 7

平成 10 年 度

# 教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

平成10年度

教育研究員名簿（保健体育）

分科会名	区市町村名	学 校 名	氏 名
I 球 技	江 東 大 田 世 田 谷 中 野 八 王 子 青 梅 町 田 小 平	深川第七中学校	◎ 福 士 鉄 矩
		大森第八中学校	武 田 啓 司
		緑丘中学校	☆ 古 木 敏 裕
		第七中学校	牧 野 英 一
		由木中学校	小 峰 真 一
		第二中学校	小 沼 和 徳
		真光寺中学校	小 川 隆 幸
		小平第五中学校	児 島 泰 彦
II 保 健	板 橋 練 馬 足 立 葛 飾 江 戸 川 武 蔵 野 武 蔵 村 山 三 宅	西台中学校	中 田 和 直
		貫井中学校	半 谷 清
		鹿浜中学校	○☆ 玄 葉 健 治
		常盤中学校	有 賀 涉
		葛西第三中学校	勝 治 圭 三
		第一中学校	愛 川 真 由 美
		第三中学校	齋 藤 真
		三宅中学校	鈴 木 秀 親

◎ 世話人    ○ 副世話人    ☆ 班長

担当 教育庁体育部体育健康指導課指導主事 齊 藤 孝 司  
 “ 伊 藤 清 一 郎

# 目 次

I	主題設定について	2
II	研究のねらいと仮説	3
III	研究の方法	3
IV	研究の全体構想図	4
V	学習活動における支援の考え方	5
VI	研究の内容	6
1	球技「バスケットボール」	6
(1)	意識調査の結果と分析・考察	6
(2)	特性	8
(3)	学習過程の工夫	8
(4)	課題のもち方と解決の仕方の工夫	8
(5)	支援のポイント	9
(6)	第1学年 球技「バスケットボール」単元計画	9
(7)	実証授業指導案	11
(8)	本時のねらいを達成するための支援	12
(9)	資料	13
(10)	結果と考察	14
2	保健「心の発達と健康」	15
(1)	意識調査の結果と分析・考察	15
(2)	教材観	17
(3)	学習過程の工夫	17
(4)	課題のもち方と解決の仕方の工夫	18
(5)	評価の工夫	18
(6)	支援のポイント	18
(7)	第1学年 保健「心の発達と健康」単元計画	19
(8)	実証授業指導案	21
(9)	資料	22
(10)	結果と考察	23
VII	研究のまとめと今後の課題	24

## 研究主題

主体的な学習活動を通して、[生きる力]をはぐくむ指導の工夫

## 研究副主題

生徒が主体的に学習する資質や能力を高める支援の工夫

— 課題解決型の学習を通して —

# I 主題設定について

今、学校には、これからの子供たちが身に付けるべき資質や能力として「生きる力」の育成が期待されている。「生きる力」は、自分で課題を見付け、主体的に判断・行動し、よりよく問題を解決する資質や能力であり、また、自らを律しつつ他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など豊かな人間性である。さらに、それらを支えるたくましく生きるための健康や体力である。この「生きる力」は、生徒の主体的な活動を中心とする新しい学力観を基盤とし、学校の教育活動全体の中で、その実現を図ることが求められている。このことを踏まえ、本研究を進めるに当たり、中学校・保健体育科として、研究主題を次のようにとらえた。

### 1 研究主題設定の理由

社会の変化に伴う生活文化の進展が目覚ましい今日、運動やスポーツ及び健康・安全は、単に健康な生活や体力の向上のためだけではなく、人生をより豊かに充実させるための「生きがい」や「文化」の一つとして、生活には欠くことのできない重要なものとなっている。

生徒が生涯にわたり、豊かなスポーツライフを実現していくためには、まず一人一人が運動やスポーツに対して関心と理解を高めていくことが重要である。その上で、各ライフステージにふさわしいスポーツライフを主体的にかつ継続的に実践していくことで実現される。

このようなことから、本研究では、これからの体育学習の在り方として、生徒が主体的な学習活動を通して自らの課題を自ら解決する力を中心とする、いわゆる「生きる力」をはぐくむことを目指した学習の充実を図ることが大切であると考えた。この「生きる力」の育成を目指す運動の実践は、生徒の関心・意欲に支えられてはぐくまれるものであり、関心・意欲の高まりが、生徒の運動欲求に直接働きかけ、自発的・自主的な運動実践を促し、さらに、生活の中に積極的に運動やスポーツを取り入れていく資質や能力を培うものにとらえ、本研究主題を設定した。

### 2 研究副主題設定の理由

生徒が主体的に学習する資質や能力の高まりを期待するには、まず、学習に対する関心・意欲を高めることが重要である。そのために、自ら課題を把握し課題を解決するという課題解決型の学習を取り入れる必要がある。その課題解決型の学習をより効果的に進めるためには、生徒が本来もっているよさや可能性を生かすことができるようにすることが大切であり、生徒の主体的な学習を支える教師や仲間による「支援」の工夫を図ることが重要であると考えた。

以上のことから、生徒が主体的に学習する資質や能力を高める支援の工夫を図ることが、生徒一人一人の「生きる力」を効果的にはぐくむものにとらえ、本研究副主題を設定した。

## Ⅱ 研究のねらいと仮説

### 1 研究のねらい

生徒が主体的に学習する資質や能力を高めるため、生徒が自ら課題を把握し、よりよく解決する学習を効果的に進める『支援』の工夫を図ることを研究のねらいとする。また、研究の主な内容を「課題の持ち方」と「課題の解決の仕方」への『支援』の工夫とする。

### 2 研究の仮説

#### 〈球 技〉

- ① 生徒が自ら課題を把握し解決するための『支援』を工夫することは、生徒一人一人の関心・意欲を高め、主体的に学習に取り組む能力をはぐくむようになる。
- ② 習得した技能、知識を生かした運動を行うための『支援』を工夫することは、生徒が運動の楽しさや喜びを味わい、生涯体育・スポーツの基盤となる能力や態度をはぐくむことになる。
- ③ 生徒が仲間と共に学習するための『支援』を工夫することは、互いのよさを認め合い高め合うなどの豊かな人間関係を醸成する態度をはぐくむことになる。

#### 〈保 健〉

- ① 生徒の生活や体験に基づいた課題を把握するための『支援』を工夫することは、生徒一人一人の興味・関心をより高め、積極的に学習に取り組む態度をはぐくむようになる。
- ② 生徒が自ら見通しをもって課題を解決するための『支援』を工夫することは、思考力・判断力を高め、意欲的に学習に取り組む能力をはぐくむようになる。
- ③ 発表の仕方やまとめのための『支援』を工夫することは、知識の共有化が図れるとともに、生徒一人一人の生活の実践につながる態度をはぐくむようになる。

## Ⅲ 研究の方法

- 1 各領域から「体育－球技領域」「保健」の分科会を設定し、研究を進める。
- 2 それぞれの領域（項目）に応じた意識調査を行い、生徒の興味・関心・意欲等について集計、分析、考察を行う。
- 3 保健体育における『支援』の考え方や在り方及びその具体化について検討する。
- 4 各分科会において、領域（項目）の特性を深く理解し、単元計画、指導案を作成する。
- 5 「体育－球技領域」「保健」それぞれの分野で、実証授業を行う。
- 6 実証授業の結果から研究全体を考察し、今後の課題を明らかにする。

## IV 研究の全体構想図



## V 学習活動における支援の考え方

これからの体育学習においては、従前、一般的に行われてきた教師が生徒に課題を与え、教師の指導・援助のもと生徒が課題を解決していく学習から、生徒が自ら課題を把握し自ら解決していく学習に移行していくことが期待されている。

本研究では、保健体育の授業における生徒が主体的に学習する資質や能力を高める上で、生徒の学習を支える教師の『支援』の考え方とその具体化を中心課題とした。

そこで、学習活動における『支援』として、次の視点についてその考え方を明らかにし、研究を進めることとする。

### 1 生徒のとらえ方

- ① 生徒一人一人は、それぞれのよさがあり、いろいろな資質や能力をもった存在である。教師は、教え込むのではなく、生徒一人一人のよさを引き出し、それに生徒が気付くようにしていくことが大切である。
- ② 生徒は、多様な可能性をもった存在であり、常によりよく生きたいと願う存在である。生徒自身は「もっと上手になりたい」「認められたい」「みんなの注目を得たい」など、生活や自分自身を向上していく意欲や期待をもっており、それを生かすことが大切である。

### 2 学習の進め方

- ① 学習の進め方においては、今もっている力をもとに、生徒一人一人が課題を把握し、それを解決していく学習過程が重要である。  
「体育分野」…「今もっている力」で運動やスポーツに取り組み、その力の高まりに応じた「新たな運動に挑戦していく力」を育てる学習  
「保健分野」…「課題の把握」→「課題の解決」→「まとめ」という3つの段階を通して、思考力・判断力を育てる学習
- ② 生徒一人一人の資質や能力を高める上で、多様な学習内容・方法が保障できる学習過程が重要である。そのために、生徒が自己の能力・適性等に応じた学習計画を立案できるようにする必要がある。

### 3 授業の運営

- ① 授業を推進する中心者は、生徒であり、教師は、生徒が主体的に学習する環境づくりを整え支える存在となることが重要である。  
「環境づくり」…言葉かけ、資料の提供、模範、用具の準備、場の設定 等
- ② 単元のねらいの明確化と単元計画の立案者としての教師の存在が重要である。また、各授業のねらいや学習全体の評価に対する教師のかかわりが重要である。  
以上の視点に基づいた思い切った授業形態の工夫・改善が必要である。そこで、本研究では、次のように『支援』の概念をとらえ、研究を進めることとする。

#### 支 援 の 概 念

生徒一人一人が、本来もっているよさや可能性に気づき、自らの資質や能力を伸ばすための手がかり

# VI 研究の内容

## 1 球技「バスケットボール」

### (1) 意識調査の結果と分析・考察

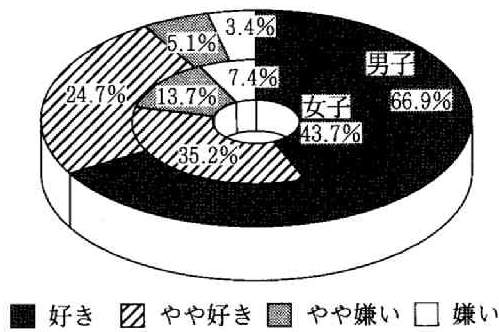
#### ① 意識調査について

ア 目的 指導計画を作成するに当たり、生徒の球技に対する興味・関心及び授業に対する意識を把握する。

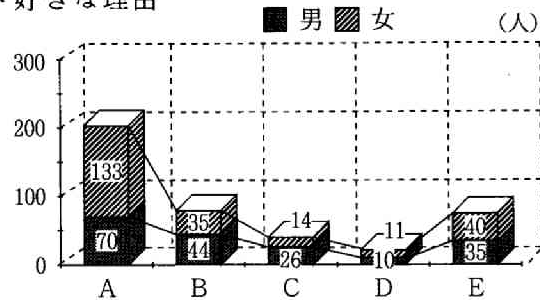
イ 対象 研究員所属校 第1学年男女生徒 565名

#### ② 意識調査の結果

##### 問1 球技についてどう思うか

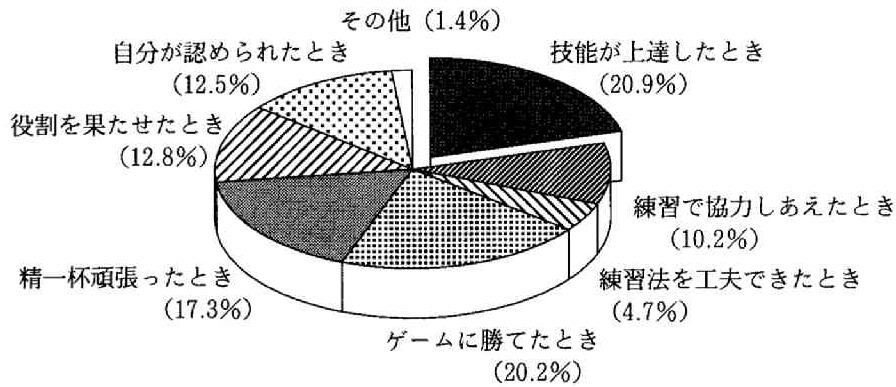


##### \*好きな理由

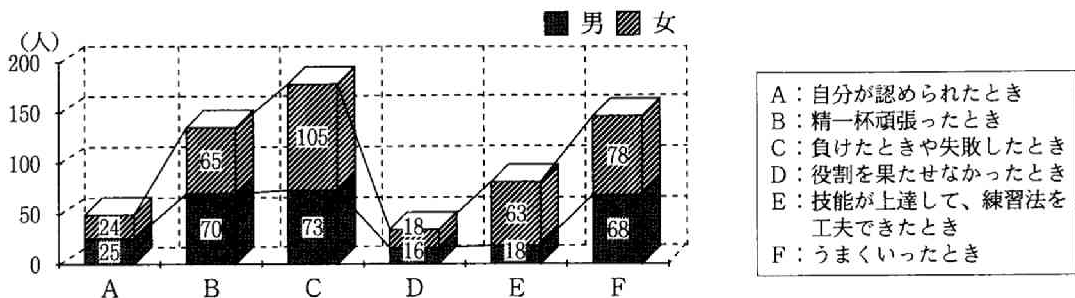


- A: ボールを使うのが楽しいから
- B: みんなで楽しく競い合い、協力できるから
- C: ボールを投げたり、ゲームで相手と競い合えるから
- D: 体を動かすことが好きだから
- E: その他

##### 問2 充実感や楽しさを感じる時



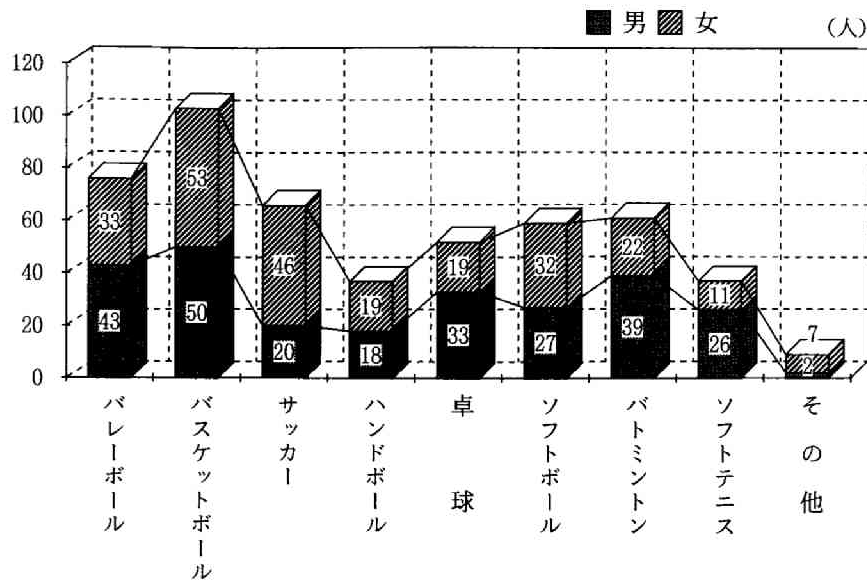
##### 問3 どんなときに友達や先生に声をかけて欲しいか (複数回答可)



- A: 自分が認められたとき
- B: 精一杯頑張ったとき
- C: 負けたときや失敗したとき
- D: 役割を果たせなかったとき
- E: 技能が上達して、練習法を工夫できたとき
- F: うまくいったとき



問4 男女共習を希望する種目（複数回答可）



③ 分析

ア 球技に関して、「好き」もしくは「やや好き」と答えた男子生徒は全体の9割以上である。女子は全体の8割弱である。また、好きな理由としては「ボールを使うのが楽しいから」が最も多い。

イ 球技を行っていて充実感や楽しさを感じる時は、「技能が上達したとき」「ゲームで勝てたとき」「精一杯頑張ったとき」の順に多い。

ウ 「ゲームに負けたときや失敗したとき」「うまくいったとき」「精一杯頑張ったとき」などに友達や先生に声をかけてほしい生徒が多い。

エ 男女共習を希望する種目では、バスケットボールやバレーボール、サッカーの順に多い。また、自由記述の中で、男女共習による授業を希望しない理由として「男女の力の差」「男子が入ると女子が遠慮する（その逆も）」をあげている生徒が多い。

④ 考察

ア 体育が好きな生徒と球技が好きな生徒が約85%程度と同じ位の割合であることから、体育が好きな生徒には、球技が好きな生徒が多いことが推測できる。小学校期において、ボール運動を通じて様々な楽しさを体験しているためであろう。したがって、中学校の体育の授業における生徒の興味・関心を高める上で、球技は重要な役割を占めている。

イ 充実感や楽しさを感じる時は「技能が上達したとき」や「ゲームで勝てたとき」が多い結果から、運動の特性に触れられる支援が重要である。また、「役割を果たせたとき」や「練習で協力し合えたとき」が比較的多いことから、チームで協力し練習方法を工夫するための支援も重要である。

ウ 自由記述の中で、男女共習については「男女の違いはあるが種目によっては男女共習も可能である」をあげていることから、より互いのよさを認め合い高め合う男女共習の授業の工夫が大切である。

## (2) 特性

### ① 一般的特性

ア バスケットボールは、ボールを媒介として、集団対集団の攻防から得点を競い合い、運動の楽しさや喜びを味わうことができるスポーツである。

イ バスケットボールは、走る・跳ぶ・投げる・止まるといった運動が連続して行われるために多様な運動能力が求められる。また、集中力や判断力、協調性など、精神的要素も重要である。

ウ 個人の能力や体力が集団的技能として集団の中で反映されるため、生徒一人一人の課題を集団の共通的な課題としてもとらえることができる。課題の把握や課題の解決のための練習方法を工夫する上で、仲間と協力することが大切である。

### ② 生徒から見た特性

ア 個人が習得した技能が集団的技能の中で発揮されたり、ゲームの中で生かされたり、チームに貢献できたときなどに、生徒一人一人の能力の伸長を確かめることができる。

イ 自己のチームの戦力を分析・考察した上で作戦を立て、ゲームに勝つことができたり、得点に結びつくまでの集団的技能ができるようになったりしたときに、楽しさや喜びを味わうことができる。

ウ 互いのチームの戦力を分析・考察することを通し、攻防の動きを読み、作戦を立てたり練習を工夫したりして、習得した集団的技能や個人的技能を活用したゲームを行うことにより、より質の高い競い合いの中で運動の楽しさを味わうことができる。

## (3) 学習過程の工夫

① 個人の能力・適性等がチームで生かされ、互いに教え合ったり高め合ったりする主体的な学習ができるよう支援する。

② 勝敗にこだわるのではなく、得点に至るまでのチームプレーを重視し、そのことを生徒が認識することが重要である。そのために、集団的技能を高める上で、チームと個人の課題との関連を明確にし、学習計画や学習内容の工夫が図れるよう支援する。

③ 運動の特性に触れられるよう、今もっている力（ねらい1）でゲーム主体の学習を取り入れ、その高まりから新たな課題に挑戦する（ねらい2）学習の流れを基本とする。  
※男女共習により、互いのよさを認め合う学習を展開する。

## (4) 課題のもち方と解決の仕方の工夫

① 生徒の能力・適性等に応じたゲーム主体の学習を通して、ルールの工夫を行いながら、バスケットボールの特性に触れられるようにする。その学習展開の中で、チームが適切な課題の把握をするために、学習資料や学習カードを活用し、主体的に取り組めるよう支援の工夫を図る。

② ゲーム主体の学習活動を通して、自己のチームや相手のチームの戦力を分析し作戦を立てていく中で、自己のチームの特徴に気づき、課題を把握できるようにする。そのために、学習資料や学習カード、他グループの学習計画の発表などから、解決の方法を見付け出していくことができるよう支援の工夫を図る。

(5) 支援のポイント

① 課題の把握の場面

- ア 集団的技能や個人的技能など自己のチームの戦力を具体的に分析できるようにする。
- イ 他チームとの比較、分析の中で自己のチームの特徴や自己の課題に気付くことができるようにする。

② 課題の解決の場面

- ア 学習資料や学習カードを参考にしたり、チーム間での学習計画の発表を参考にしたりして、自己のチームの特徴に気付くようにする。
- イ ゲーム主体の学習の中で、個人的技能の高まりが集団的技能の高まりにつながり、互いの協力が解決への糸口となることに気付くようにする。

③ 運動の特性に触れる場面

- ア ルールの工夫をし、ゲームを進めていく中で運動の特性に気付き、触れられるようにする。
- イ 集団対集団の攻防の中で作戦を立て、チームで協力して、競い合うことの喜びや楽しさを味わえるようにする。

④ 人間関係をはぐくむ場面

- ア 個人または集団の課題を把握し解決していく中で、互いのよさを認め合い高め合うことの大切さに気付くようにする。
- イ 精神面でのチームワークの重要性に気付くようにする。

⑤ 評価の場面

- ア 他チームの発表やゲームを通して、適切な課題をもち、課題解決のための適切な学習計画が立てられているか、振り返られるようにする。
- イ 勝敗だけにこだわるのではなく、適切な作戦や得点に至るまでの集団的技能の習熟の過程を重視していく。

(6) 第1学年 球技「バスケットボール」単元計画（12時間扱い）

① 学習のねらい

- ・今もっている技能を使ってゲームを楽しみ、自己のチームの力に応じた作戦を立てて練習を工夫する能力を身に付ける。
- ・技能の習熟に伴い、相手チームに応じた作戦を工夫して練習やゲームを行う能力を身に付ける。
- ・ゲームを通して互いに相手を尊重し、安全に留意して学習する態度を養う。

② 学習方法（男女共習）



- ・各グループ5～6人で構成し、学習を進める。



(7) 実証授業指導案 (12時間扱いの8時間目)

	学 習 内 容	学 習 活 動														
はじめ 5分	1 集合、整列、あいさつ 2 対戦相手、ルールの確認 3 グループごとの準備活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに集合し、あいさつする。</li> <li>出欠席、健康状態の確認</li> <li>キャプテンは集合して、対戦相手とルールを確認する。</li> <li>準備運動、チームの作戦の確認</li> <li>用具、器具の準備、安全点検</li> </ul>														
な か 37分	ねらい2の段階 (対抗戦によるゲーム) 4 前時の課題を確認するためのゲーム 5 本時の課題を解決するためのチーム練習 < 予想される活動の例 >	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>ゲームから行うチーム</th> <th>ゲームの運営から行うチーム</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ゲーム1 (3分・4チーム) ゲームの運営 (1チーム)</td> <td>ゲームの運営 (2チーム) ゲーム2 (3分・2チーム)</td> </tr> <tr> <td colspan="2">ゲーム2でゲームまたはゲームの運営に携わらないチームはゲームの内容を参考にして、課題を解決するための練習を行う。</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">→ 立案した作戦の見直し</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>【個人的技能選択】</th> <th>【集団的技能選択】</th> <th>【ゲーム練習選択】</th> <th>※練習の組み合わせ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>セットシュート</li> <li>ランニングシュート</li> <li>1対1のドリブル</li> <li>2対1のクイックパスなどの練習</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>ツーメン、スリーメンダッシュ</li> <li>カットインプレー</li> <li>マンツーマン、ゾーンディフェンスなどの練習</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>2対1、2対2のゲーム</li> <li>3対2、3対3のゲームなどの練習</li> </ul> </td> <td>                     ※練習の組み合わせ                      ・個人的技能                      ↓                      集団的技能                      ・ゲーム練習                      ↑    ↑                      個人 集団 など                 </td> </tr> </tbody> </table>	ゲームから行うチーム	ゲームの運営から行うチーム	ゲーム1 (3分・4チーム) ゲームの運営 (1チーム)	ゲームの運営 (2チーム) ゲーム2 (3分・2チーム)	ゲーム2でゲームまたはゲームの運営に携わらないチームはゲームの内容を参考にして、課題を解決するための練習を行う。		【個人的技能選択】	【集団的技能選択】	【ゲーム練習選択】	※練習の組み合わせ	<ul style="list-style-type: none"> <li>セットシュート</li> <li>ランニングシュート</li> <li>1対1のドリブル</li> <li>2対1のクイックパスなどの練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツーメン、スリーメンダッシュ</li> <li>カットインプレー</li> <li>マンツーマン、ゾーンディフェンスなどの練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2対1、2対2のゲーム</li> <li>3対2、3対3のゲームなどの練習</li> </ul>	※練習の組み合わせ ・個人的技能 ↓ 集団的技能 ・ゲーム練習 ↑    ↑ 個人 集団 など
ゲームから行うチーム	ゲームの運営から行うチーム															
ゲーム1 (3分・4チーム) ゲームの運営 (1チーム)	ゲームの運営 (2チーム) ゲーム2 (3分・2チーム)															
ゲーム2でゲームまたはゲームの運営に携わらないチームはゲームの内容を参考にして、課題を解決するための練習を行う。																
【個人的技能選択】	【集団的技能選択】	【ゲーム練習選択】	※練習の組み合わせ													
<ul style="list-style-type: none"> <li>セットシュート</li> <li>ランニングシュート</li> <li>1対1のドリブル</li> <li>2対1のクイックパスなどの練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツーメン、スリーメンダッシュ</li> <li>カットインプレー</li> <li>マンツーマン、ゾーンディフェンスなどの練習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2対1、2対2のゲーム</li> <li>3対2、3対3のゲームなどの練習</li> </ul>	※練習の組み合わせ ・個人的技能 ↓ 集団的技能 ・ゲーム練習 ↑    ↑ 個人 集団 など													
ま と め 8分	6 本時の課題を解決するためのゲーム 7 グループごとの整理活動 8 学習のまとめ 9 整列、あいさつ 10 全体の片付け 11 解散	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態の確認</li> <li>整理運動</li> <li>グループで使用した用具、器具の片付け、安全確認</li> <li>集合</li> <li>次時の対戦相手確認</li> <li>学習カードのまとめ、次時の課題の整理</li> <li>グループごとに整列し、あいさつする。</li> <li>全体の片付けをする。</li> </ul>														
事後 学習	12. 次時の課題の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習計画の検討</li> <li>自己評価</li> </ul>														

(8) 本時のねらいを達成するための支援

分類	支援の方法	支援による予想	予想される生徒の主体的活動	評価	【本時のねらい】
課題の把握 	対戦表を配布掲示する 3	チームの課題が明確になる	課題解決に向け、チームの活動が始まり、生徒が協力してゲームの準備をする	チームの課題が明確になり、準備がスムーズに行われているか(思)	…… 相手が安全手1全 チームに1や留 ム練習意 に習し 応をて じ通ゲ たし1 作てム 戦技や や能練 練の習 習習を を熟行 工をう 夫図。 して。 ゲ ー ム を 楽 し む。 ※支援の方法の欄の数字は、実証授業案の学習内容の数字に対応する。 ※評価の欄の( )内は、 (関) 関心・意欲・態度 (思) 思考・判断 (技) 技能 を表す。
	学習カードの授業のまとめを記入することを確認する 8	本時の学習をまとめ次時への課題を把握する手がかりとなる	授業終了後、次時の課題を把握するための話し合いを行う	次時の課題が把握できているか(思)	
課題の解決	課題を解決するためにゲームを行い学習カードを活用する 4	チームの課題解決の方法が適切であるか明確になる	課題の把握が適切になり課題を解決するためのチーム練習が意欲的に行われる	各チームの課題解決の方法は適切であるか・目標設定(思) ・課題選択(思) ・練習決定(思)	
	相手チームに応じた作戦や練習が行われているか確認する 5	チーム練習の内容がメンバーに理解される	選択した課題に対して意欲的に取り組む	課題に対して意欲的に取り組んでいるか(関)	
(学習計画)	学習カードの内容を確認しカードを使って助言する 12	課題を把握する手がかりとなる	課題を把握して次時の授業に見通しをもって取り組むことができる	課題が把握できているか(思)	
運動の特性 (技能)	プレーに対して声をかけ助言する 4、5、6	プレーに対する理解が深まる	ゲームの内容をチーム練習に生かせるようになる	チーム練習に生かしているか(技)	
		生徒同士で技能を高め合うようになる		技能を高め合うことができているか(技)	
		生徒が種目の特性を理解するようになる	チームで協力して楽しみながらゲームを行えるようになる	チームで楽しみながらゲームに参加しているか(技)	
人間関係 	健康状態、準備運動、用器具の安全点検を確認する 1、2、7	互いの健康状態や安全点検について気を付けるようになる	互いの健康観察や安全点検が行えるようになる	協力し合い互いに健康や安全について気を付けているか(関)	
	リーダーに本時のまとめを発表するように声をかける 8	互いの頑張りを確認するようになる	互いに相手を尊重し高め合えるようになる	互いの頑張りを認め合えているか(関)	
評価	自己評価カードの内容を確認して助言を記入する 12	次時の授業に対して見通しをもつことができる	グループの活動に見通しをもって参加できる	グループの活動に見通しをもって参加しているか(思)	



(9) 資料

学習カード (例)

バスケットボール学習カード [チーム] 8・9・10時間目

授業を行うまでに話し合う課題	ねらい	相手チームの特徴に応じた作戦を立て練習を工夫する。					
	対戦相手	月日( )	①VS グループ	②VS グループ	③VS グループ		
	チームの目標						
	チームの作戦	(相手チームの特徴) 説明					
	チームの練習	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 個人的技能</li> <li>• 集団的技能</li> <li>• ゲーム練習</li> <li>• 練習の組合せ</li> <li>• 必要な用具</li> </ul>					
先生からのアドバイス							

• 毎時間ごと学習カードを用い、上段は「授業を行うまでに話し合う課題」で、前もってグループごとに考えておく。

授業のまとめ	試合の結果感想	①( )-( )勝・負		②( )-( )勝・負		③( )-( )勝・負		
	チームの反省 ◎…よくできる ○…できる △…もう少し	目標は達成できているか	作戦はうまくいっているか	チーム練習は適切であるか	チームで協力プレーしているか	協力して話し合っているか	協力して準備や片付けをしているか	健康や安全に気をつけて活動をしているか
	次時の課題 (うまくできなところなどを課題とする)							
	次時の対戦相手と目標							
	先生より							

• 下段の「授業のまとめ」はその日の授業の最後にグループごとに話し合いをもち記入する。  
※それをもとに次時の上段部分を検討していく。

※次時のチームの目標、チームの作戦、チームの練習を記入しよう。

バスケットボール〈自己評価カード〉 グループ

年 組 番 名前

はじめの目標								新たな目標		
評価項目 / 月日	関心・意欲・態度	思考・判断	技 能	知識・理解	記入の仕方 ◎…よくできる ○…でき少し △…もう少し	活動の振り返り	先生より			
	課題を意識し、意欲的に練習やゲームに取り組んでいるか	安全を確認し、健康に留意して運動ができているか	互いに助言したり、協力して活動できているか	自分で合った課題も自分でできているか	工夫して練習やゲームができているか	攻撃がうまくできているか	防衛がうまくできているか	ゲームで自分の役割が果たせているか	ルールを理解してゲームにのぞめているか	審判の仕方が理解できているか
/										
/										

• まず「はじめの目標」を記入し、授業を進めていく中で新しい課題を見つけたときには「新たな目標」を記入する。  
評価項目に沿って自己評価し、活動の振り返りでは、総合的にまとめて記入する。

## (10) 結果と考察

### ① 結果

支援の方法	結果
<ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード、学習資料の配布、掲示。</li> </ul>	<オリエンテーション> <ul style="list-style-type: none"> <li>学習カード、学習資料を活用することで、学習のねらいや道すじを理解して意欲的に学習に取り組むことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果の整理、提示。</li> </ul>	<学習形態> <ul style="list-style-type: none"> <li>グルーピングにおいて技能中心に分けるのではなく、生徒の意欲、協力、リーダー性を考慮することでグループ活動が主体的に行われた。</li> <li>男女共習のグループ学習を行うことで、互いに相手を尊重しながら豊かな人間関係をはぐくむことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケートの実施、考察。</li> <li>プレーに対する声かけ、助言。</li> <li>授業の流れ、対戦相手、場所などの掲示。</li> <li>学習カードによる確認、助言。</li> <li>学習資料による練習パターンの例示。</li> <li>対戦用紙の掲示、記入への声かけ。</li> <li>話し合いカードの配布。</li> <li>係生徒への声かけ、助言。</li> <li>キャプテン会議による学習のねらいや道すじの確認。</li> </ul>	<学習過程> <ul style="list-style-type: none"> <li>楽しさの体験、学び方などの一人一人の生徒の特性を把握することで、生徒の興味、関心に沿った学習過程を工夫することができた。</li> <li>ゲーム中心の学習過程を設定することで、球技の特性に触れ運動の楽しさや喜びを味わうことができた。</li> <li>課題解決型の学習を取り入れたことで、毎時間明確な課題をもって意欲的に取り組むことができた。</li> <li>学習資料を活用することで、段階的に学習計画を立てることができた。</li> <li>学習カードを活用することで、課題把握の手がかりとなった。</li> <li>対戦用紙を活用することで、観戦者の意見を作戦に生かすことができた。</li> <li>ルールについて話し合うための資料を提示することで、技能の高まりに応じたルールでゲームを楽しむことができた。</li> <li>授業の始まりや終わりにチーム内で係の生徒を中心に、互いの健康や安全について気を配れるようになった。</li> <li>学習段階の高まりに応じてキャプテン会議を行うことで、学習のねらいに沿って活動を行うことができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価カードによる確認、助言。</li> </ul>	<評価> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己評価カードを活用することで、グループの活動に見通しをもって参加することができた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>タイマー、電子ホイッスル、チーム別カラーゼッケン、カード整理カゴの用意。</li> </ul>	<教具> <ul style="list-style-type: none"> <li>教具を工夫することで、時間の短縮、グループの把握、安全面への配慮に役立った。</li> </ul>

### ② 考察

- オリエンテーションの工夫は生徒の学習への動機付けを高めることにつながるため、ビデオの活用など一層の充実が必要である。
- 男女共習は協力や思いやりの心を育てるよい機会となるが、体力的な違いなど、生徒一人一人が安全面への配慮をもつことが必要である。
- プレーに対する声かけや助言は、生徒が運動の特性に触れ、技能の向上を図るためにも重要な場面であるため、予想や内容の精選が重要である。
- 学習カードの内容を精選し「授業を行うまでに話し合う課題」と「授業のまとめ」を設けることで話し合いの質が向上するため、課題解決の内容を充実することが重要である。
- 学習資料による練習パターンの例示は生徒の活動のために有効ではあったが、戦術の高まりに発展できるような質的な向上の工夫が必要である。
- 掲示、配布物の工夫は、生徒の主体的活動を引き出すために有効な手段となる。
- 授業の始まりや終わりだけでなく、ゲームや練習中においても、互いの健康や安全について気を配れるようになることが重要である。
- キャプテン会議はグループ活動が充実する上で重要であり、ねらいの達成が図れるときに行うと有効である。
- 自己評価カードを活用し生徒のグループ活動での様子を把握することは、声かけや助言を行う上で役立つ。
- VTRを利用するとプレーを視覚的に確認できるため、課題の把握に役立つ。



## 2 保 健 「心の発達と健康」

### (1) 意識調査の結果と分析・考察

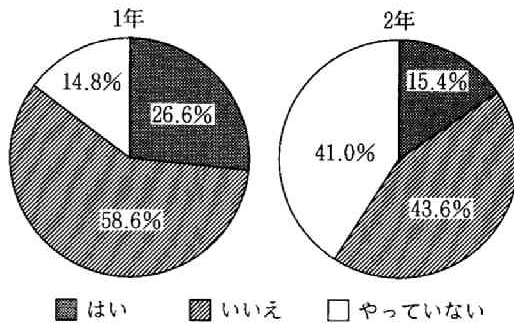
#### ① 意識調査について

ア 目 的 指導計画を作成するに当たり、保健学習に関する意識を把握する。

イ 対 象 研究員所属校 第1学年 237名 第2学年 292名

#### ② 意識調査の結果と分析

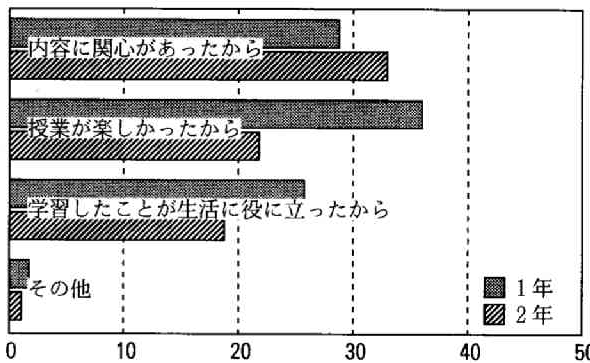
##### 問1 保健学習に興味があるか (%)



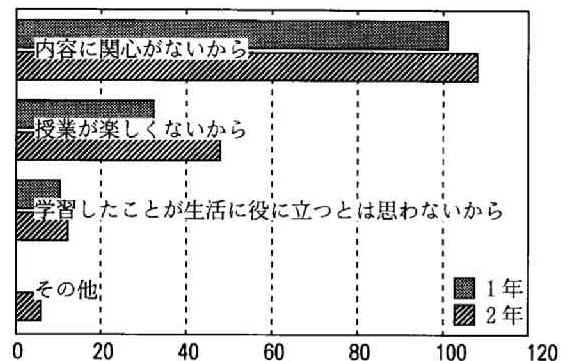
#### 〈分析〉

- 興味のない生徒は、1年で約59%、2年で約44%である。
- 興味がある生徒では、1年では授業が楽しかったからが多く、2年では「内容に関心があったから」が多い。
- 興味のない生徒は、内容に関心がない生徒が大多数を占めている。

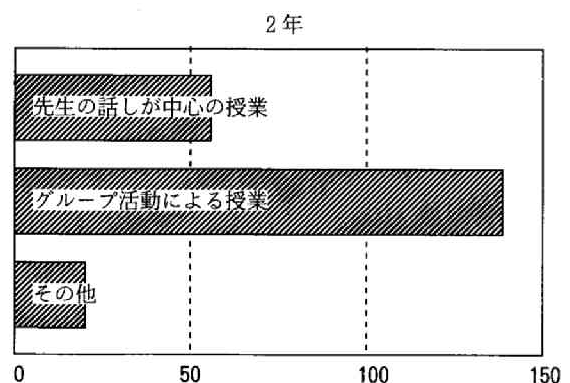
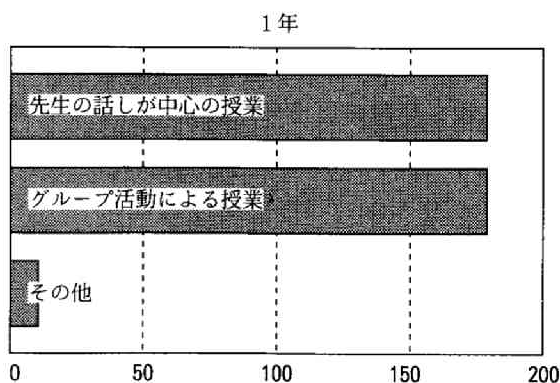
##### 問2 なぜ興味があるか (人)



##### 問3 なぜ興味がないか (人)



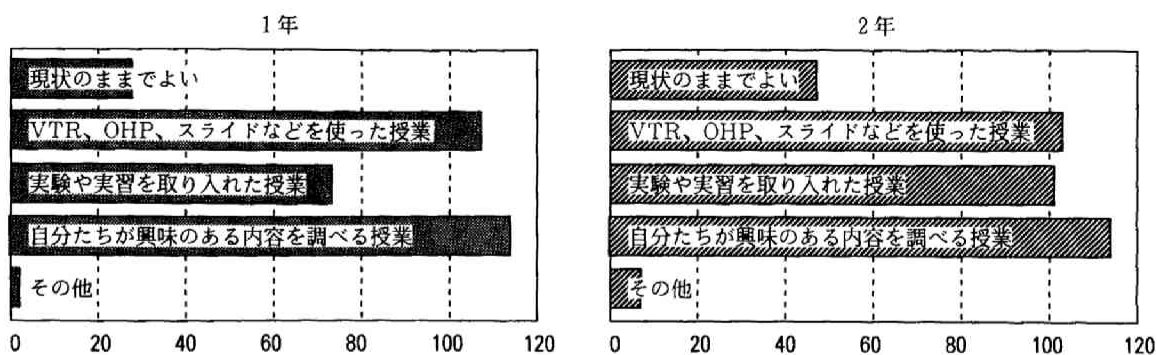
##### 問4 保健の授業はどのような方法であれば、楽しく学習できると思うか (複数回答可) (人)



#### 〈分析〉

- 1, 2年生ともグループ活動による授業を取り入れることにより楽しく学習できるという生徒が最も多い。

問5 どんな授業を受けてみたいと思うか（複数回答可）（人）



〈分析〉  
 ・「自分の興味ある内容を調べる授業」「VTR、OHP、スライドを使った授業」「実験や実習を取り入れた授業」を受けてみたいと思っている生徒が多い。

③ 考察

ア 保健学習に対する興味について、半数の生徒が「ない」と答えている。その理由は、「内容に興味がないから」「授業が楽しくないから」である。このことから、保健分野の内容そのものの必要性を感じていないことや、現状の授業形態そのもの楽しさを感じていないことが分かる。したがって、「楽しい授業」「学習内容が身近なものに感じられること」の工夫を図ることにより、生徒の興味・関心を高めることができると考えられる。

イ 生徒はグループ活動を含んだ授業を受けてみたいと考えており、グループ活動を取り入れることによって、生徒の学習意欲が高まると考えられる。

ウ 生徒は「自分たちが興味のある内容を調べる授業」「VTR、OHP、スライドを使った授業」「実験や実習を取り入れた授業」を受けてみたいと考えており、特に、1年生では「自分たちが興味のある内容を調べる授業」に取り組みたいという意欲が感じられる。したがって、意欲が高い1年生のうちに生徒のより主体的な学習内容・方法を支援していくことが重要である。そのためには、教師自身、知識を伝達することのみにとらわれるのではなく、生徒自身が課題を見付け、それを解決していくために様々な角度から学習形態を工夫することが必要である。

(2) 教材観

「心の発達と健康」においては、親からの自立（自己形成）に気付き、自らの欲求に対して適切に対処することのできる能力を培うことが重要である。また、中学生期は、身体的にも精神的にも成長の著しい時期であり、これらの内容を学習することにより心の健康と関係を理解して健康を自らコントロールし、自らの心の健康を管理できる能力や態度を高めることができるようになる。

- ① 「自己形成」については、自分自身に目覚め、客観的に他人の立場を見つめることや考え方を理解できるようにする。
- ② 「欲求」については、生理・心理・社会的欲求を理解し、人間はこれを満たそうとして行動するが、必ずしも満たされるとは限らないことを理解する。
- ③ 「欲求に対する対処」については、精神的な安定が図られるためにどうすればよいのかを理解する。中学生期は、身体的変化や精神的に揺れ動く時期であり、欲求に適切に対処する仕方を理解する。
- ④ 「体と心のつながり」については、不安や緊張時に、顔色が青ざめたり動悸がしたり腹痛が起こることを理解し、精神の状態が身体にも影響を及ぼすことを理解する。
- ⑤ 「心の健康」を保つには、自己や他人に対する理解を深めて、欲求に適切に対処するなど心身の調和を保つことが大切であることを理解する。

(3) 学習過程の工夫

- ① 課題の把握、課題解決、まとめという学習活動の段階に応じて、生徒一人一人の興味・関心に基づいた課題を把握し、思考・判断して、知識・理解を高める工夫を図る。
- ② 学習の進め方の工夫

段階	学 習 活 動 Ⅰ	学 習 活 動 Ⅱ		学 習 活 動 Ⅲ	
方法	○見付ける ○発見する	○考える	○調べる	○まとめる	○発表する ○発表を生かす
学 習 活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読み、自分の考えや意見を出す。</li> <li>・自らの悩みごとや気になることを記述する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題を考える。</li> <li>・課題の解決方法を考える。</li> <li>・学習計画を立てる。</li> <li>・発表方法を考える。</li> <li>・発表の準備の計画を立てる。</li> <li>・グループの役割を分担する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習計画に沿って調べ学習を行う。</li> <li>・学習に取り組み、まとめて、発表の準備をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各グループが発表を工夫するとともに、互いの知識を共有する。</li> <li>・自らの悩みや心配ごとの解決方法を見付ける。</li> </ul>	

#### (4) 課題のもち方と解決の仕方の工夫

知識・理解を深め、学習した内容が日常生活に実践できる態度を養うために、生徒自身が課題に気付き、学習計画を立て、課題を解決できるように、次の2つの視点から学習内容・方法を工夫する。

##### ① 課題のもち方の工夫

生徒自身の体験や身近な出来事から、興味・関心を高め、自ら心の発達や健康についての課題に気付き、課題が把握できるように学習資料を工夫する。また、グループ学習を取り入れることにより、仲間と共に意欲的に学習活動ができるように工夫する。

##### ② 解決の仕方の工夫

生徒が主体的に課題を解決するために、使いやすい学習ノートを工夫するとともに、グループの課題に合った具体的な学習計画を立て、課題を解決していけるように学習資料を工夫する。また、発表を通じて、知識の共有化を図るとともに、日常生活に実践化できるようにまとめの方法を工夫する。

#### (5) 評価の工夫

「心の発達と健康」において、次の3点に考慮して評価活動を行う。

##### ① 教材および研究の内容による観点の重視

「関心・意欲・態度」や「思考・判断」においては、課題学習を取り入れることで一人一人の学習に対する姿勢や学習過程での工夫の仕方および考え方などを中心に評価する。また、「知識・理解」では、単なる理解の度合いではなく、学習過程の中で自ら得た知識や発表を通して学んだことを評価する。

##### ② 自己評価の項目を精選し簡潔に行える評価の工夫

毎時間ごとの自己評価をねらいに照らし合わせながら、項目や記入の方法を精選し、生徒にとってわかりやすく取り組みやすい内容にする。

##### ③ 評価全体としての形成的評価の重視

課題学習を取り入れたことで、生徒が学習活動を調整したり、自己のつまずきを判断することがより重要となる。そのため、学習過程における形成的評価を重視し、生徒の学習状況を知ることが、教師の支援につながり、その結果、生徒主体の学習活動が展開できるようになる。

#### (6) 支援のポイント

「生徒一人一人が主体的に学習する力を身に付けること」をねらいとし、学習過程に視点をあて、ねらいを達成するための『支援』の在り方を次のように段階的にまとめる。

##### ① 学習活動Ⅰ（課題の把握への支援）

ア 生徒の興味・関心や疑問などを大切に、多様な考え方を認められるような例文を活用しながら発問を行い、課題に気付き、把握することができるように支援する。

イ 学習の進め方の資料を示すことにより、学習に見通しをもち、解決可能な課題を把握できるように支援する。

ウ 各自の課題を整理し、課題に応じたグループをつくることにより、仲間と共に意欲的な活動ができるように支援する。

エ 課題を例示することにより、グループの課題の把握をより円滑に行えるように支援する。

② 学習活動Ⅱ（課題の解決への支援）

ア 調べ学習において、使いやすい学習ノートを工夫することにより、生徒が主体的に課題を解決することができるように支援する。

イ 課題の解決方法や多様な発表の方法を例示することにより、グループの課題に合った具体的な学習計画を立てられるように支援する。

ウ 学習計画の見通しを他のグループに公開することにより、計画の見直しや意欲的な活動ができるように支援する。

③ 学習活動Ⅲ（まとめへの支援）

ア 発表を通じて知識の共有化を図れるように支援する。

イ 学習を振り返る学習ノートの活用により、自己の生活への実践につながるようなまとめの仕方を支援する。

(7) 第1学年保健「心の発達と健康」単元計画（6時間扱い）

① 学習のねらい

- ・自己の生活や体験に基づいた課題を把握し、心の発達と健康について興味・関心を高める。
- ・課題の解決のための見通しをもった学習計画を工夫し、グループ活動を通して意欲的に取り組み、思考力・判断力を高める。
- ・発表を行うことで知識を共有し、一人一人の生活に実践できる態度を育てる。

段階	学習活動Ⅰ	学習活動Ⅱ		学習活動Ⅲ
	1	2	3	4 5
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活経験との比較</li> <li>・学習の方法の理解</li> <li>・課題の把握</li> <li>・グループ分け</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題の解決のための方法の理解</li> <li>・課題の解決のための学習計画の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調べ学習の実施</li> <li>・発表の準備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表</li> <li>・知識の共有化</li> <li>・自己の生活の中での実践へつなげるまとめ</li> </ul>

② 学習方法（男女共習）

- ・各グループの構成は、課題別で構成し、人数については、複数であれば可とする。
- ・図書館、地域の施設、情報機器を活用する。

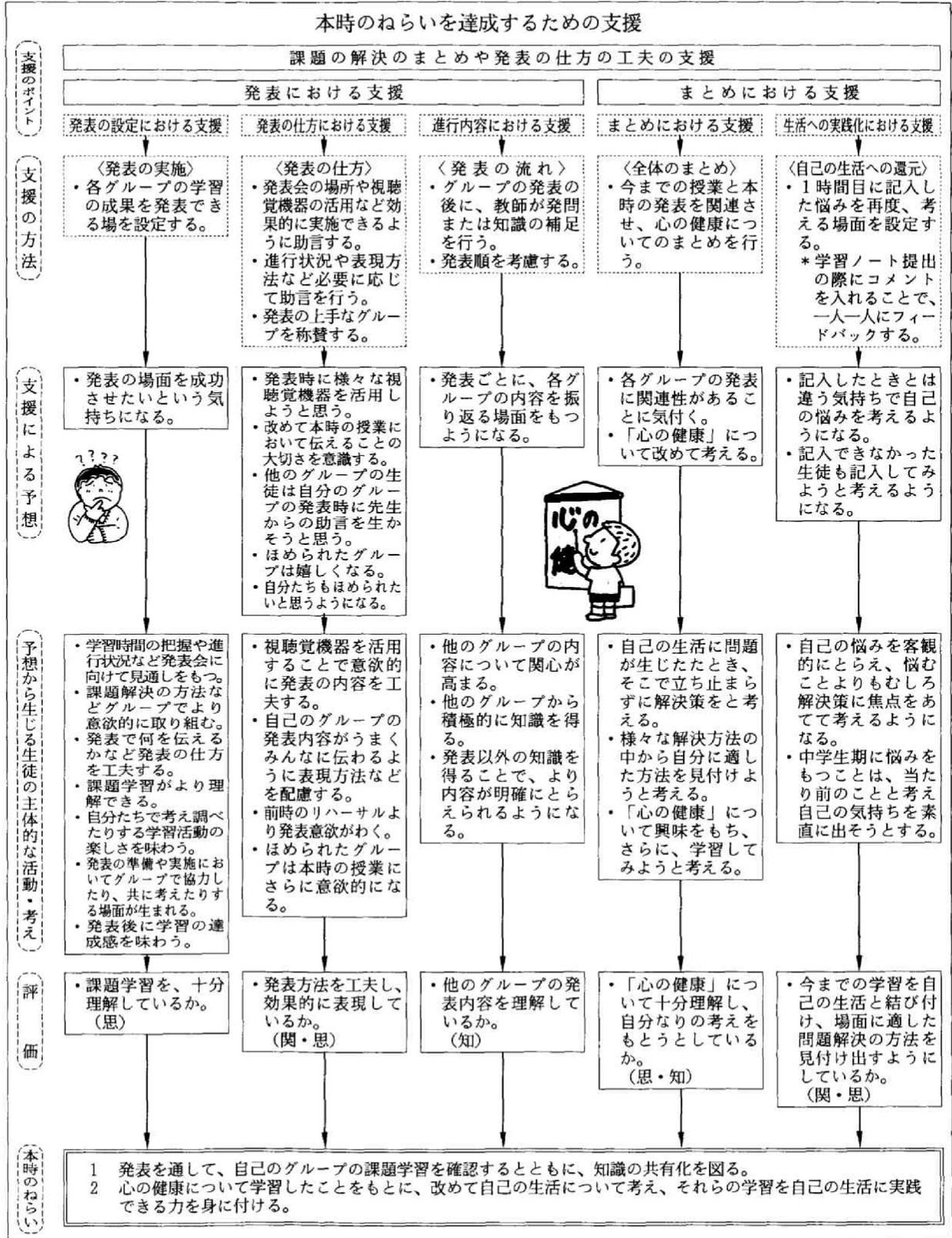
段階	時間	仮説	学習内容・活動	支援
学習活動Ⅰ	はじめる	1	生活や体験に基づいた課題を把握し、興味・関心を高める	
			1 (1) 心の発達と心の健康について、自己を振り返り原因を探る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>心の発達と自己形成</li> <li>欲求</li> <li>心と身体のかかわりについての例文を示し、心の存在を知らせるとともに、生活経験と比較し、課題に気付くことができるようにする。</li> </ul> <p>例文により課題に気付くことができる支援</p>
			1 (2) 一人一人が課題を把握し、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の課題を引き出し、今後の学習の進め方を説明する。(課題を例示する)</li> </ul> <p>学習の進め方の資料による支援</p>
		1	(3) 興味・関心のある課題に応じたグループをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>似たような課題をもち興味・関心が共通する生徒のグループづくりを行う。</li> </ul> <p>課題に応じたグループをつくる支援</p>
学習活動Ⅱ	なか	2	課題の解決につながる学習計画を作成し、意欲的に取り組む	
			1 (1) 各グループの課題を決める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>主題から具体的な課題を把握する。</li> </ul> <p>具体的な課題の把握の支援</p>
			2 (2) 課題を解決するための方法を理解する。(各グループごとに方法を発表する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の把握ができ、課題に合った解決方法を選択できるようにする。</li> </ul> <p>課題を解決する方法を見付ける支援</p>
		3	(3) 課題を解決するための学習計画を作成する。(各グループごとに学習計画を発表する)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループの取り組み方について把握するとともに、課題を解決し発表できるよう学習計画を立てられるようにする。</li> </ul> <p>学習計画を立てるための支援</p> <p>計画の見通しを他に発表する場や機会の支援</p>
		4	課題の解決のまとめや発表の仕方を工夫する	
		5	(1) 調べ学習の取り組みを行う。(調べ、まとめ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の解決に向けて、生徒が主体的に取り組み、効果的に学習できるようにする。</li> </ul> <p>書物や資料による学習 他の教師の活用による学習 実験を通じた学習 教育機器を使った学習 活動を振り返る評価カード</p> <p>による支援</p>
		3	(2) 発表の練習と決定を行う。(発表の仕方を工夫し、確認する)	<p>発表の仕方を確認できる学習ノートの準備や練習の場の設定による支援</p>
学習活動Ⅲ	まとめ	6	知識を共有し、生活に実践できる力を身に付ける	
		3	(1) 自己のグループの発表を行う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表ごとに足りない部分の補足説明を行う。</li> </ul>
		3	(2) 他のグループの発表を聞き、新たな内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>他のグループの発表を聞き、解決の確かめと知識の共有化が図れるようにする。</li> </ul>
		3	(3) 心の発達と健康について、一人一人が対処の仕方を自己の生活に実践できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人に課題を振り返り、実践・行動できる態度を身に付けることができるようにする。</li> </ul> <p>授業を振り返る学習ノートによる支援</p>

※ 「仮説」の欄の数字は、本研究の保健分野の仮説に示した数字と対応する。



(8) 実証授業指導案 (6時間扱いの6時間目)

	はじめ 5分	なか 38分	まとめ 7分	支援のポイント	支援1 課題の把握への支援 (課題の把握の仕方)
学習内容	1 あいさつ 2 出席確認 3 前時迄の流れについて 4 本時の内容の確認	5 発表 (5グループ) ・発表時間 5分~7分 ・発表時間 1分~3分	6 まとめ ① 授業全体のまとめ ② 自己の生活の振り返り		支援2 課題の解決への支援 (学習計画の作成)
					支援3 まとめへの支援 (発表やまとめの仕方)



※ 評価の欄の ( ) は、(関) …関心・意欲・態度、(思) …思考・判断、(知) …知識・理解を表す。

(9) 資料

① 課題の把握のための例文

※生徒が自ら心の発達（自己形成）についての課題に気付くことができるよう工夫した。

○次の各文章を読んで、それぞれの問いを考えてみよう。

<1>

中学生になって、学校に行くのは友達がいって楽しいけれど、勉強も難しくなり、部活もきびしくなって家ではボーとしていることが多くなった。親には「勉強しろ」とか「手伝いぐらいはしなさい」と言われるが、分かっているのに言われるとよけいにやりたくなくなってしまう。勉強しないでファッション雑誌なんか見ていると、追い打ちをかけるように「まったくかっこうばかり気にして、本当に言うことを聞かなくなったね」なんて言われる。

確かに小学生の頃は、それなりに親のいうことを聞いて手伝いもしたし、勉強もしたのに中学生になってから何だか親のいうことがうるさく感じてしまう。仲よしの友達に話をすると「うちもいっしょだ」って聞いて少し安心した。親より友達の方がよほどいいと思う。

最近、「もともと頭がよくないんだから、勉強なんてできるわけがない」なんて考えてしまう。でも、素直じゃない自分が少し不安になってくる。私はこのまま大人になっていくんだろうか・・・。

Q1 この文を読んで、あなたは同じようなことを感じたことはありませんか？・ある・ない

Q2 この文を読んで、特に同じようなことを感じる部分はどんなことですか？

(例) ・「勉強しろ」と言われてやりたくなくなる。

・「かっこうばかりつけている」と言われていやな思いをした。

Q3 あなたならこの文を書いた人に、上の文章のように相談されたらどのように受けとめ、話をしますか？

② 課題の例示

※例文に対する発問を行い、課題を把握できるよう、次の課題の例示を資料とした。

「どうしてなんだろう？」

◎心の発達と自己形成

- ・小学生の頃と比べて、どうして親の言うことがうるさく感じるのだろう。
- ・中学生の頃になると、どうして周りのことが気になるのだろう。
- ・親より友達の方がよく思えるのはどうしてなんだろう。
- ・中学生になると、少しずつ異性のことが気になり出すのはどうしてなんだろう。

◎欲求と欲求不満

- ・欲求にはどんな種類があるのだろう。
- ・小学生の頃と中学生の頃では欲求は違うのだろうか。



## (10) 結果と考察

### ① 結果

支援の方法	結果
<ul style="list-style-type: none"><li>課題を気付く上での例文による発問</li><li>学習の進め方の資料の提示</li></ul>	<p>〈はじめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>生徒が自ら課題を把握するために導入段階を工夫することにより興味・関心を高め、意欲的に学習することができた。</li><li>生徒自身による学習計画を支援することにより、課題解決の方法を理解し、合理的で見通しをもった学習活動ができた。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>具体的な課題の例示</li><li>学習資料の提示（計画と内容）</li></ul>	<p>〈なか〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>具体的な課題の例示をすることにより、課題の把握が容易になり学習活動がより円滑に行われた。</li><li>学習資料の提示の仕方を工夫することにより、生徒の学習活動が活発に行われた。</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>発表の場と時間の確保</li><li>授業の振り返り</li></ul>	<p>〈まとめ〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>発表の場と時間の設定を支援することにより、やり遂げた成就感を得たり、知識を共有することができた。</li><li>発表を通して知識を共有し、授業を振り返ることを通して、新たな課題を発見する姿勢が見られるようになった。</li></ul>
<p>〈単元全体を通して〉</p> <ul style="list-style-type: none"><li>学習ノートや学習資料は、生徒に計画的に提示でき効果的であった。「言葉かけ」は、生徒の反応や実態に応じて行うため、計画的な支援があまりできなかった。</li></ul>	

### ② 考察

ア 生徒が自ら意欲的に学習に取り組むように、今回は導入段階で例文を提示した。生徒のもっている力で課題を引き出すために、効果的な導入方法を工夫していく必要がある。

イ 教師の支援は、多くても少なくとも、生徒の意欲的な活動に影響があるために、学習環境や生徒の実態などを十分考慮して行うことが大切である。

ウ 学習ノートは、短時間で記入でき、効果的なものを作成する必要がある。

エ 1単位時間の中で発表とまとめを行う場合には、発表方法や内容について、事前に十分な準備をする必要がある。

オ 学習の仕方を中心に学ぶ活動では、幅広い知識の習得という点について、今後、学習内容・方法や単元計画などの工夫を検討していく必要がある。

## Ⅶ 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

生涯学習を目指した中学校保健体育科の学習において、生徒が自ら課題を把握し解決する学習を推進するため、学習内容・方法の工夫・改善が求められている。

このため、生徒が自ら課題の把握をし、効果的に課題の解決をするための『支援』を工夫することで、主体的に学習する力が身に付くのではないかと考え、本研究主題を設定した。なお、研究の主な内容を「課題のもち方」と「課題の解決の仕方」への『支援』とした。

#### (1) 学習過程において

- ① 生徒が自ら課題を見付け、解決の方法を工夫しながら授業を進めることで、興味・関心が高まり、積極的な学習への参加が見られた。
- ② 学習資料、学習カード（学習ノート）などを効果的に活用することで、生徒の課題のもち方と解決の仕方が円滑に進んだ。
- ③ 球技において、生徒が習得した技能、知識を生かして運動を行うための支援を行うことで、生徒が自信をもって運動を行うことができた。
- ④ 保健において、発表の仕方やまとめの工夫を支援することで、知識を共有し、健康な生活への意識化を図ることができた。

(2) リーダーの会合を有効に活用することで、グループとしての意識を高め活発な活動が行われた。

(3) 生徒が学習を行うために場や教材・教具の工夫をすることにより、意欲が高まり効果的な学習活動が行われた。

(4) 学習を進める上での教師の言葉かけは、生徒の反応や実態等に応じて行うため、生徒の主体的な活動が図れるまでに至らず、適切に行うことができないことがあった。

### 2 今後の課題

(1) 学習の導入部分での動機付けでは、学校環境や生徒の実態に応じて、様々な方法を工夫していく必要がある。

(2) 学習資料は、扱う単元の特性（教材観）と内容が理解しやすいよう、内容を検討し、精選していく必要がある。

(3) 学習カード（学習ノート）は、短時間での記入が可能になるよう、効果的に内容を工夫・改善していく必要がある。

(4) 球技では、学習資料による練習パターンの例示は、生徒の活動のために有効であったが、より多様な学習内容の工夫・改善を図っていく必要がある。

(5) 保健では、深く知るという部分で効果的であったが、幅広い知識の習得という視点から今後、学習過程の在り方などの検討を図っていく必要がある。